

## ☆前期授業研究会 I ☆ (高知の授業の未来を創る推進プロジェクト実践研究協働校事業)

5月の教材研究会を受けて、再度単元構想や見方・考え方を働かせた姿を見直し、6月4日の授業研究会に臨みました。本時は、8/9時間目の友達の広告を比べて表現の工夫や意図や目的を考えていく学習を行いました。授業と事後研究の様子をお知らせします。協議では、9年間の系統についても話し合い、中学校の先生方のご意見もお聞きすることができました。

### <授業の様子>



**単元名** 「中小Tシャツ売り上げアップ大作戦！」全9時間  
**教材名** 「広告を読みくらべよう」4年2組 小島 美味 教諭  
**身に付けさせたい資質・能力**  
表現の工夫や効果の違いに着目して読み、作り手の意図や目的を捉える力



キャッチコピーと写真があって工夫しているね。



キャッチコピーの言葉から家族で着てほしいことが分かるね。

### ☆本時の目標☆

作った広告を読み比べ、表現の工夫の違いやその効果から書き手の意図や目的を考えることができる。

### <研究協議の様子>

授業後は、「言葉による見方・考え方を働かせている姿、手立てがあったか」の視点を中心に、研究協議を行いました。また、次の5・6年、中学校へつながりについても考えていきました。中学校の先生にも発表していただくことで学びの連続性を感じ、見方・考え方を働かせる姿を明確にしていくことの大切さを改めて認識することができました。

### ☆本時の言葉による見方・考え方を働かせている姿☆

広告に表現された言葉や写真、イラストなどから書き手の意図やメッセージがこめられた部分とその表現の効果を明らかにしようとする姿

友達の広告の目的や意図などから自分の考えをもつには？

キャッチコピーや写真などの表現の工夫について、よさを見つけることはできていたが、意図やメッセージなどについての自分の考えを持つまでには至ってなかった。

みんながよいと思った広告を取り上げ、グループで交流する前に全体共有の場をもつ。その中で意図やメッセージに向けさせる。

学習展開の途中でも、広告を作った目的や意図にもどる。



意図や目的、表現の工夫については、小学校の低学年から中学校3年生まで系統でつながっている。

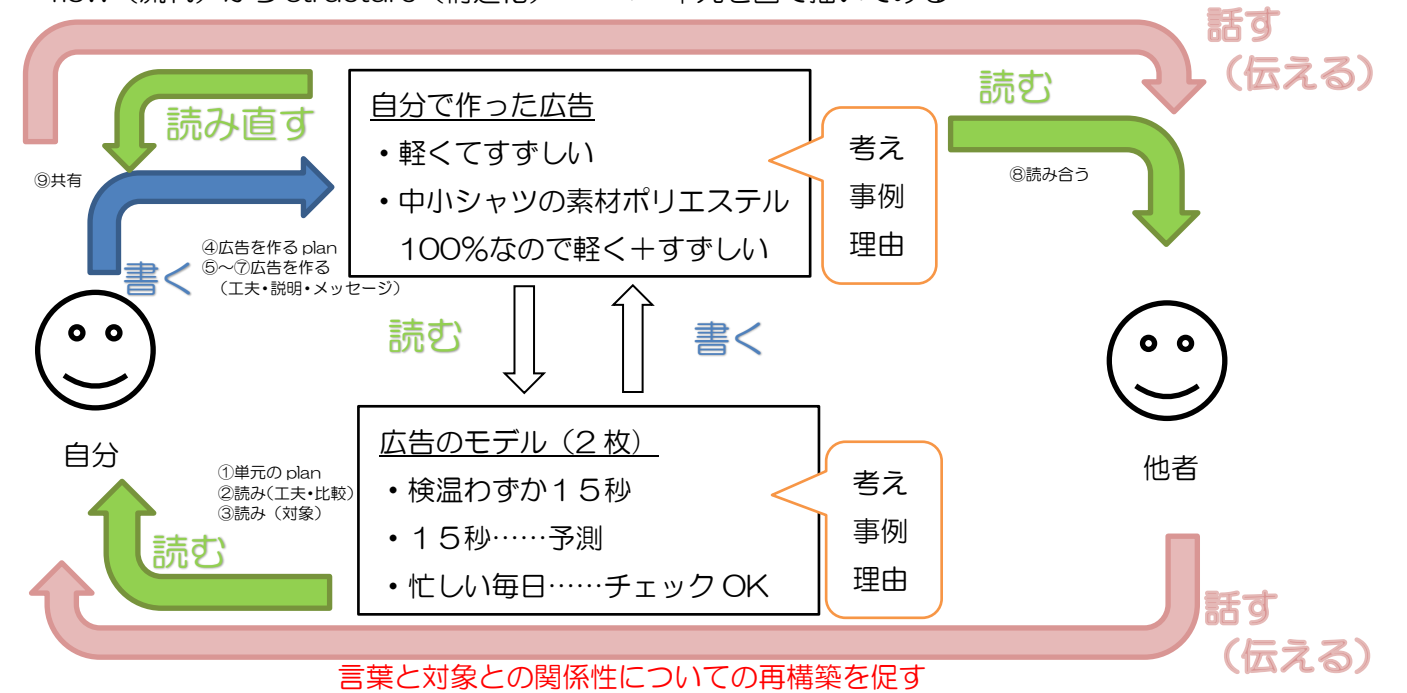


同じ相手に向けて作ったグループで交流するとよいのではないか。

## ☆齊藤 一弥先生の講話☆

### 1. 単元デザインの描き方

- 子どもの学びの文脈を描く (今回の単元構想から)
- flow (流れ) から structure (構造化) へ ⇒ 単元を図で描いてみる



言葉と対象との関係性についての再構築を促す

### 単元の流れ

- ①単元の plan
- ②読み (工夫・比較)
- ③読み (対象)
- ④広告を作る plan
- ⑤～⑦広告を作る (工夫・説明・メッセージ)
- ⑧読み合う
- ⑨共有

今回の単元において、本時の8時間目が、これまでの流れとつながっていなかった。子ども達は、自分の作った広告について話したい。作った広告がどうか友達と話すこと、書いたものを読み直す(推敲)ことが子どもの自然な思考である。(友達からの提案…批判的思考により問い直していく。)

- ・単元を回していくことは、いかに子どもの能力を高めていくかの道筋。
- ・子どものやり取りが、自らの資質・能力を高める。

**子どもが自ら動く学びに!**

### 2. 言葉へのこだわり

○何を追究するか？

語と文の質を議論する。⇒ 言葉にこだわる子どもにするために、学習の中に仕込むことが大切。「読む」「書く」において、相手・目的を意識することは、どちらにも重視される能力。

### 3. 学力のとらえ

○教科における期待すべき学力を問う。

- ・学力…先人の文化遺産(知恵)の伝達  
教科のよさ・働き・必要性を伝えたい。
- ・学習によって身に付ける、知とスキル能力を高めていく。→経験をさせる。
- ・言語活動を通して知恵を磨く。
- ・文化的実践(学びの過程)を重視する。

齊藤先生のお話から、子どもの学びに沿った学習過程を描くこと、その学習過程の中で、言葉へのこだわりや資質・能力を高めるためにいかに教師が仕込んでいくか等、改めて単元構想について振り返り、描き方を問い直す必要性を感じました。今回の授業研究会を通しての多くの学びを日々の実践に活かすために、先生方と意見交換しながら授業づくりを進めていきたいと思っております。単元を考える時には、子どもの学びを図でデザインしてみましょう!